



向陵広場

発行号 第18号
 発行日 平成29年8月2日(水)
 発行元 向陵編集校友会
 責任者 伊藤有司 (県10回卒)

豊川海軍工廠の空襲・戦場で死亡した卒業生 (供養塔所在地 豊川稲荷隣接地)



供養塔の由来

昭和20年8月7日午前10時30分突如米軍機 B29 の大編隊が豊川海軍工廠に来襲数千の爆弾、焼夷弾、無数の機銃弾が投下され廠内は一瞬修羅の巷と化し阿鼻叫喚のうちに職員、従業員、学徒、女子挺身隊員、庸員、傭人等の尊い命 2,000 有余を奪って

しまった。其の惨状目を被はしめ混乱の状筆舌の及ぶところではなかった。同年終戦和平となるや豊川海軍工廠報国団が中心となり現地に供養塔を建立して挺身国難に殉じた英霊 2,000 余柱の冥福を祈らんと議が起り全団の資金と団員の汗の奉仕とにより10月25日地鎮祭を行い翌21年9月23日竣工除幕式を挙行了。因に塔中には戦死者名簿と廠内縁りの土を納め各工場の石定盤に戦死者氏名を刻し台座周辺に組み以って永久に冥福を祈らんとした。

偶々昭和32年8月7日此の地に於て英霊13回忌法要厳修の際生存者一同相諮り供養塔の概要を記し後世に伝えんとて此の碑を建立す。 右記す

昭和32年8月7日

元豊川海軍工廠従業員生存者一同 八七会

豊川海軍工廠の大空襲により、豊橋市立商業学校生七名(18回生2名、19回生5名)が死亡している



(所在地 豊川市勤労福祉会館の近く)

豊商健児之碑

(碑文)

太平洋戦争耐なる昭和19年4月我等豊商健児440餘名は学徒勤労働員令下使命感に燃え紫紺の桐花旗はためく母校をあとに勇躍豊川海軍工廠に出動兵器増産にその愛国至誠と青春の情熱を捧げた。爾来1年5ヶ月昭和20年8月7日敵 B29を主力とする戦爆連合169機の波状攻撃による大空襲に遭遇2500有餘名の犠牲者と運命を共にされた友又学徒出陣して白雲流るる南溟の果に波騒ぐわだつみの底に或いは北斗の星輝くシベリヤ乃原野に散卒された友又志半ばにして病に斃れた友等祖国日本の栄光を信じ護国の礎となられた学友12名の鎮魂と世界平和を祈念し我等の友情と団結の象徴として同級生相図り母校創立80周年並びに卒業40周年を記念し此処に此の碑を建立する。

昭和61年9月

豊橋市立商業学校

第18回卒業 桐八会

第19回卒業 桐九会

